

おわりに

ピア・サポートは、移民を多く受け入れてきたカナダ、アメリカ、イギリス等の欧米諸国で、1970年代以降、有効性について実践や研究が進み、現在は日本や中国などのアジア諸国へも広がりを見せています。日本においては、2000年代以降に、ピア・サポート活動の実践や研究が進展してきました。

日本でのピア・サポート活動が進展し始めて約10年後、2011年3月11日、東日本大震災が起きました。そのとき、いち早く中国や韓国の救援隊が被災地に向かったこと、アメリカ軍は三陸沖に空母を派遣しヘリポートの基地を提供してくれたこと、また、その直前に震災を被ったばかりのニュージーランドからも支援が来たこと等、世界各国から多くの救援が日本に届いていることを、私は日本から遠く離れたカナダの地で知りました。地球人とは何か、地球上にともに生きるとは何か、そしてピア・サポートとは何かをもう一度立ち止まって考えさせられる機会となりました。

東日本大震災から約10年、ちょうどこの「おわりに」を書いている最中に中国で新型コロナウイルスの感染拡大が始まり、日本も含め今や世界のあちこちで感染拡大が起こっています。2014年に中国から留学生として私が所属する大学に入学し、大学院時代にピア・サポートを学び、被災地での活動をともにした学生たちがいます。大学院修了後は、ピア・サポート・トレーナーとして中国の大学で大学生にピア・サポートトレーニングを実践しています。その修了生から以下のようなメールが届きました。

「新型コロナウイルスの感染拡大で混乱している中国です。混乱のなかで、日本からマスクなどの支援物資が届いています。日本も予防のためのマスクが不足していると聞いています。本当に必要としている国に届けたいという日本人のピア・サポートの心を中国の人たちは喜んでます。私は今、大学で中国の学生たちに、日本のピア・サポートの心を伝えています。大学院でピア・サポートを学んで本当によかった！」「先生、京都から中国に届いた支援物資の箱に、『青山一道雲雨、明月何曾是兩郷』と書かれたメッセージが添えてあったそうです。このメッセージの意味を先生はわかりますか？ 『雨も風も乗り越えてきた仲間は、たとえ遠く離れていても、同じ空で同じ月を眺めています』という意味です。先生が教えてくれた、ピア・サポートの意味が今、よくわかります」と。

大学でのピア・サポート活動の研究や実践は、本著で紹介されているように各大学で試行錯誤しながら、それぞれに種まきを終え、小さな芽が出始めたところ です。ピア・サポート活動の今後の成長にご期待あれ！そして、本書を読んでもくださったみなさん、一緒に研究し、一緒に実践していきましょう！